

余市・小樽間におけるバスの輸送力の検討について

余市・小樽間について、バスのみで輸送に対応できるかどうか、北海道中央バス及びJR北海道からの情報提供をもとに、幹事会で検討を行った。

1 1日あたりの輸送量の検討

	運行本数	輸送量(概算)※1	乗車人員※2	乗車率
JR北海道	33本	約 5,640人	1,799人	約32%
北海道中央バス	113本	約 6,780人	2,371人	約35%
計	146本	約 12,420人	4,170人	約34%

※ ニセコバス(8本)は含んでいない。

※1 JRは1両当たり99人として編成車両数を考慮、バスは1台あたり60人として算出。

※2 JRは平成30年、バスは令和2年の平日の調査日での乗車人員。

- ・ 現状、余市・小樽間では、バスは鉄道より運行本数が多く、輸送量も多い。
- ・ 鉄道とバスの乗車人員の合計4,170人に対し、バスの定員は約6,780人であることから、**1日あたりの輸送量はバスで対応可能**と考えられる。

2 ピーク時間帯の検討

【余市駅を朝に出発する時間帯のバスの輸送量とJR・バスの乗車人員】

	バスの輸送量		乗車人員			バスの必要 運行本数	必要 増便数
	運行 本数	輸送量 (概算)	JR	バス	JR+バス		
6時台	6本	360人	51人	190人	241人	5本	▲ 1本
7時台	7本	420人	328人	242人	570人	10本	3本
8時台	3本	180人	145人	65人	210人	4本	1本
9時台	4本	240人	0人	71人	71人	2本	▲ 2本

ピーク時の輸送量に対応するには、**7～8時台発は増便が必要**となるが、**6時台や9時台発は余裕がある**ことから、ダイヤの変更による対応も考えられ、**輸送量に対応するために必要な増便は1本程度**と考えられる。

実際の検討にあたっては、所要時間、快適性、利便性、人口減等による利用者の減少も考慮の上、増便も含めたダイヤの検討が必要と考えられる。